

COLUMN

連載 101

仕事について考える

札幌大谷大学社会学部

教授 平岡祥孝

過ぎゆく夏を惜しむ時節を迎えました。あの夏の暑さが懐かしくなりますね。

札幌市は、2040年の市内の15歳以上の就業者数が約67万人にとどまり、必要な人数を16万人下回るとする試算を公表しました(『北海道新聞』2019年8月6日付記事)。道都札幌ですら人口減少に直面して、労働力不足は深刻化していくことは必定了。ましてや地方の農林水産業や観光産業が主体となっている「生産者」を如何に支えていくかが、北海道の最優先課題であると言っても過言ではありません。

いわゆる人手不足は、業種間で大きく異なります。建設業、宿泊・飲食サービス業や福祉分野では、慢性的な人手不足に悩まされているようです。他方、選考・選抜が何度も繰り返される業界もあります。一例を挙げましょう。ある地域金融機関の大卒総合職採用の場合には、およそ1000名がエントリーシートを提出します。書類選考で約300名が不合格、WEBテストで約200名が不合格になります。そし

て、面接が5、6回行われて、最終的には50名程度が内定となります。また、地域限定職では大卒女子が多数応募してくるので、高校生や短期大学生・専門学校生の採用は減少傾向にあると、推察されます。

採用格差とも呼べるような状況が見られます。とは言うものの、人手不足解消に向けて全力で対応する必要があります。女性の社会進出を促すこと、高齢者の活用などが常に話題となっています。加えて、非正規雇用から正規雇用への転換促進も、政策誘導されつつあります。外国人労働力の問題も、さらに議論が深まってくるのが予想されます。

私が注目していることは、来年4月からは、「同一労働同一賃金」が導入されます。この同一賃金は、正規労働者と非正規労働者との不合理な待遇格差を是正するために、働き方改革関連法に盛り込まれました。能力や成果が同じ水準であれば、正規雇用、非正規雇用とは無関係に賃金などを同一水準に定める考え方です。当然と言えば、当然のことですね。

けれども、気がかりな点もあります。内部留保が積み上がっている企業ならばいざ知らず、財務基盤が脆弱であって総人件費を固定化している企業では、正規雇用の待遇を下げないか、私は懸念します。同じ職場で分断が起きることは不幸なことです。

地方において労働力を確保するためには、まず若者の流出を防止して若年労働力を地元で確保していくことが重要ではないでしょうか。上級学校への進学に際して一度地元を離れてしまうと、卒業後は、どうしてもUターン就職の割合は低下してしまいます。地域の高等教育機関の魅力を高めることも、地元就職対策に寄与すると思います。

あくまでも私の独断と偏見ですが、地方の非正規労働者こそ待遇改善されるべきです。最低賃金は、東京都1013円、神奈川県1011円で1000円台に到達しました。しかし、北海道は861円です(『読売新聞』2019年8月1日付記事)。「最低生計費」を考えるならば、地方における最低賃金の引き上げ効果は、首都圏よりも高いかもしれません。

一定の所得が保証されて、組織的にも人間関係においても働きやすい職場があるならば、故郷に就職する若者が増えると思うのは私だけでしょうか。地域の本気度が求められます。



【ひらおか・よしゆき】札幌大谷大学社会学部教授。英国の酪農経営ならびに牛乳・乳製品の流通や消費を研究分野としている。高校生・大学生の就職支援やインターンシップ事業に携わってきた経験から、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランス、仕事論、生涯教育などのテーマを中心に、講演やメディアでも活躍。

浦幌町応援大使2019年シーズン成績

7月31日(水) 現在



中島卓也選手

打率：.223 試合数：86 打席：227 打数：243 安打：49 単打：43 二塁打：5 三塁打：1 本塁打：0 得点：31 打点：14 四死球：16 犠打：7 犠飛：0 盗塁：11 出塁率：.275

西村天裕選手

防御率：4.70 試合数：17 勝数：0 敗数：0 勝率：.000 ホールド：3 セーブ：0 投球回：23 自責点：12 失点：14 奪三振：23 与四死球：13 打者：106 被安打：23 被本塁打：4

今年では全国では熱中症でお亡くなりになられる方が続出する暑い夏となっておりますが、北海道においても7月後半から猛暑が続いています。

その中で小麦の収穫がいち早く終了し、期待に違わぬ出来高を記録したようで、農家の皆さんも最初の出来秋にほっとしていることだろうと思います。

7月15日、16日の2日間で今年度最初の北大で現代日本学を学ぶアメリカ、タイ、オランダ、フィリピン、オーストラリア、台湾などの留学生12名が浦幌町を訪問し、地域学習を学ぶラーニングジャーニーが行われました。スザンネ北大准教授の指導の下に4班に分かれて浦幌町の魅力と印象、可能性について町民らとの交流やインタビューなどを通じて探りながら留学生の視点で見た提案もしていただきましたが、改めて小さな町だからできる可能性についても考えさせられました。

7月19日開催の「十勝家畜共進

会」で浦幌町から出陳された黒毛和種（生後17ヶ月〜20ヶ月未満の部）で「ことは号」が1等1席で最優秀を獲得し、さらに最高位決定審査では最高位ではありませんでしたが特別賞を受賞しました。平成24年に「第29回北海道和牛共進会」で最高位賞を得た浦幌町の「ことは号」の血統を遺憾なく発揮して、浦幌町肉牛の栄誉を高めたことに関係者も多いに喜び合いました。

7月28日に日立建機フェスティバルが浦幌試験場で5年ぶりに開催されて、1000人以上の来場者が町内外から詰め掛けました。海外へ輸出専用の機種であり、大型過ぎて国内では試験場以外で組み立てることが出来ないため、普通は見ることができない161トン積載可能な大型のダンプカーやショベルを目にしたり、目もくらむ高さの運転席に座ったりして親子連れの子供も大人も感動の1日だったようです。また、その日の最高気温は浦幌町が日本で1番暑

い日となった平成29年7月8日と奇しくも同じ35.2度で猛暑日でした。熱中症の心配もしましたが、日立建機試験場の十分な配慮もあり来場者の皆さんは満足して帰られたようです。

7月29日と30日に十勝活性化期成会の役員たちで、北海道と東京霞ヶ関や衆参議員会館へ4班に分かれて夏の陳情を行ってきましたが、猛暑の中での陳情は、汗だくで走り回りましたので流石に堪えましたが、関係者や関係部局などへは十勝活性化期成会としての重点項目を伝えて理解を深めてもらうことが出来ました。

金曜日の夜から女子プロゴルフでイギリスが舞台の「AIG全英オープン」が放映されているテレビに釘付けになり、昨年プロデビューしたばかりで世界で行われる試合には初めて出場する渋野日向子選手が世界の並み居る強豪を制して、初優勝を遂げる試合からは目が離せなくなりました。世界のメジャーといわれる大会で優勝

するのは樋口久子選手以来42年振りだそうです。常に笑顔でプレーする姿はシンデレラスマイルと称され世界中から賞賛されたようです。日本人として世界で常に上位で活躍している畑中奈紗選手とともに来年7月24日に開会式を迎える第32回オリンピック競技大会（東京2020大会）の種目である女子ゴルフに新たな金メダル候補が誕生したと楽しみになりました。東京オリンピックの入場券は入手困難なチケットとされていますが、各種目の選考会も行われており、オリンピックムードは今から上り調子のようです。

第一次産業もこれから収穫の秋を迎える季節となります。農林漁業の素晴らしい出来秋と事故のない作業を願いながら、商店街にも景気が反映され賑わいが戻ることを願いたいと思います。

浦幌町長 水澤一廣